

ゴルフの話

客員弁護士 大瀬戸 豪志



子供のころの野球は「する」もので、ゴルフは「みる」だけのものでした。おとな（老人）になってからの野球は「みる」だけのもので、ゴルフは「する」ものになりました。野球もゴルフも棒で球を飛ばすという点では共通します。その点で、「みる」野球から「する」ゴルフを学ぶことができます。4月の初めに伝統の巨人阪神戦の開幕戦をテレビでみました。今年の阪神は「超変革」のスローガンを掲げてシーズンに臨んでいます。走攻守すべてで今までの阪神とは違った印象を確かに受けました。よく走ります。ホームランバッターもピッチャーも。しかし、「走ること」は走ったらダメな（ゴルフ界のレジェンドがそういっていました）ゴルフの参考になりません。阪神の若手のスイングは振り切ることに徹していました。これをみてはたと気付きました。ゴルフの練習場ではほぼまっすぐ目測通りの距離が出るのに、ゴルフ場ではうまくいかない。その原因は、練習場では思い切って振るのに、ゴルフ場では加減しているのではないかと。翌日にあったあるコンペでとにかく攻めの姿勢で振り切ることを心掛けました。途中で失敗することもありましたが、守りに入ることはすまいと戒めました。結果は、自己ベストに近いスコアで優勝することができました。

健康維持のためかと思いきや65歳の誕生日の翌月からはじめたゴルフ歴も、この7月で満7年になります。その間、1年に1本の割合でドライバーを買い替えました。誰もが望む曲がらず遠くに飛ぶクラブを追い求めたことにより、はじめのうちは訳が分からず先輩やゴルフショップの店員に勧められるままに手を出した結果でもありました。いま使っているドライバーは比較的曲がらず距離もでます。やっと自分に合ったものに巡り合えた感じですが、これで満足できるかどうかはわかりません。アイアンは2代目で済んでいます。パターもマレット型からピン型に変えましたが、両方ともまだしっくりこないところがあります。

ゴルフを始めた当初は、当時の自宅の近所にあった100ヤードちょっとの小さな練習場に足しげく通いました。全くの我流でした。ときどき厚かましくも隣りで打っている上手い人に声をかけて指導を受けることもありましたが、しかし、この時についてしまった悪い癖が抜

けず、その後の上達を妨げる原因になっています。ラウンドは近場の亀岡や大津方面のゴルフ場に行くことが多かったのですが、遠く六甲方面にも出かけたこともありましたが、運転免許を持っていないので、いつも誰かの車に同乗させてもらっています。人生で後悔することの一つは運転免許を取らなかったことです。今は最も近場で、コースの一部にしか乗用カートがなく、ほとんど歩きの大津のゴルフ場がホームコースになっています。ここは適度にアップダウンもあり、年寄りの健康維持の第一歩である足腰が鍛えられます。どのゴルフ場にも個性があり、優しいところもあれば難しいところもあります。目標とするスコアがでたので、どこへ行っても同じようなスコアで回れるようになったと思いきや、勇んで次のゴルフ場へ行くと、打ちのめされて帰ります。その繰り返しです。

初心者のころは親しい友人と3、4名でラウンドすることが多かったのですが、最近はホームコースでのコンペに参加することが多くなりました。コンペでは知人と同組で回る人が多いのですが、初めての方と一緒にすることもあります。職業柄、法曹界の知人とのコンペもあります。御池総合法律事務所にお世話になることになったのも、坂田均弁護士と京都法曹ゴルフ倶楽部のコンペで一緒に回り、昼食をとりながらたまたまた話の結果です。ゴルフの最大の効用です。そのほかにも大学の教員時代の研究者仲間や教え子たちとのコンペ、近隣の商店主や小学校の元教員たちとのコンペもあります。ゴルフを通して実際範囲も広がり、いろいろな職業の方たちとの交流は実に楽しいものです。

古稀をとっくに過ぎた今では季節を問わずラウンドすることが最大の楽しみになっています。ラウンドするたびにうまくなりたいたいという向上心はまだ衰えていません。それなりに齢をとり持病を抱えながらも、発明や著作物、デザインやトレードマークなどの法的紛争に関する実務や研究を今でも続けることができるのはゴルフのおかげだと思っています。からだがつづき、カミサマのお許しがでる限り、これからもゴルフに精を出すことにするつもりです。